

平成22年度 第1回豊田市スポーツ振興審議会 会議録

【日 時】 平成22年7月6日(火) 午前10時00分～12時00分

【場 所】 豊田市役所 教育委員会議室

【出席者】 (委員) 小幡 銀伸 ((財)豊田市体育協会 会長) 《会長》
鈴村 幸雄 (豊田市体育指導委員協議会 会長) 《副会長》
岩月 富士雄 ((社)豊田市身障協会 理事)
大内 光子 (スポーツ指導員)
加納 淳史 (豊田市区長会 理事)
北村 幸子 (豊田市女性スポーツ団体協議会 会長)
柴田 泰典 (豊田市健康づくり協議会 会長)
手嶋 道雄 (豊田市スポーツ少年団 本部長)
寺田 広貴 (豊田市小中学校長会 保健体育委員会 委員長)
平林 栄子 (スポーツ指導員)
湯浅 景元 (中京大学 体育学部長)
(事務局) 吉田 万佐敏(教育長) 水野 孝之(教育次長)
倉橋 剛(教育委員会調整監) 山崎 隆弘(スポーツ課課長)
坂井 京子(スポーツ課副主幹) 村中 正史(スポーツ課副主幹)
熊谷 明典(スポーツ課係長) 大橋 史幸(スポーツ課係長)

【傍聴人】 0人

【次 第】 1 委嘱状交付
2 新任委員自己紹介
3 会長あいさつ
4 教育委員会あいさつ
5 議題
(1)(仮)新・生涯スポーツプラン検討部会報告について
(2)平成22年度審議会による分野別評価について

【議事等の摘要】

議事

事務局：資料に基づき説明(資料1、新・生涯スポーツプラン概要版)

豊田市のスポーツの現状及びプランの基本方針について

委員：例えば、家庭でできる体操の普及等、家庭で一人でできるスポーツの機会を創出すれば、スポーツの実施率は向上できるのでは。また、小学生の体力・運動能力テストの結果が全国平均を下回ったということだが、簡単なことで向上できる部分が大いなので、体力向上に向け、協力できると思う。

事務局：家庭で一人でできるスポーツの機会創出については、するスポーツの中の成人のスポーツにおいて、「個々の生活リズムに合わせたプログラムの提供」という施策を考えている。また、支えるスポーツにおいて、「企業・大学との連携」という施策を考えており、子どもの体力向上だけでなく、企業・大学には、いろいろな面においてご協力をお願いしていきたいと考えている。

委員：健康という視点で見れば、スポーツ実施率はもっと上がると思われる。アンケートの手法に問題があるのでは。

事務局：アンケートの項目は国と同じだが、国は個別面接による回答、本市は郵送での回答といった手法の違いはある。

委員：手法が異なるのに、国と比較して10%低いという表現はどうか。

委員：現状を知ってもらうという市民への啓発の意味での参考資料ということではどうか。

事務局：手法が異なることを補足して表記する。また、アンケートの手法については、次回への課題としたい。

委員：「する」「みる」「支える」スポーツの定義は、文章でなく、もう少し見やすい表記にしてほしい。

スポーツ活動の振興について

委員：障がい者に対する施策はどうなっているのか。

事務局：検討部会でも議論になったが、障がい者という項目を設けるのではなく、本文中の個々の取組みの中で取り上げていきたいと考えている。

委員：障がい者を区別せず、健常者と同様に取り扱う方がよいのでは。

会長：施策の柱として、障がい者という項目は設けないが、本文中では障がい者に配慮している内容としたい。

委員：健康増進課との連携など、他課との連携がより大きな効果を生むのではないか。

事務局：施策の体系の中で「スポーツ関連行政組織の連携」があるように、プランの策定だけでなく、策定後も他課と連携してスポーツ振興を図っていきたいと考えている。

委員：活動場所がないという話があるが、学校を活用すべきである。

委員：学校体育だけでは、体力向上は望めない。地域と学校の連携が必要である。

委員：高齢者という表現はどうか。ヤングオールドという表現もあるが。

会長：表現もそうだが、このプランを個性あるものにしたい。この後の検討部会でしっかり検討していく。

委員：市民にわかりやすく、かつ全国に発信できるようなプランにできるとよい。

スポーツ施設整備について

会長：現行プランの予定事業にあがっていた公認プールについて、検討部会では建設費、維持管理費ともに多額の費用がかかることから、大学や企業のプールを借用し、建設を見送っては、ということになったがいかがか。

委員：大学等で借用できるのであれば、その方がよいのでは。

委員：公認プールとなると、大学のプールでも難しいのではないか。

事務局：市民大会は、中京大学のプールを借用して行っており、そのような使用の仕方を想定している。

委員：将来的には必要かもしれないが、すぐに整備する必要はないと考える。

会長：新プランでは、将来的な整備に向けた検討を継続するという整理としたい。

委員：体操体育館はどうか。

事務局：専用ではないが、サブホールでできる環境を整えて対応したいと考えている。

委員：旧合併町村の施設整備はどうか。

事務局：平成18年度の当審議会において、大会が開催できる規模の体育館が必要との答申があったが、現在は大会も開かれていないこと、身近な施設は整備されていることから、トレーニング設備の整備、老朽化の対応など、既存の施設を活用していくという整理としたい。

事務局：資料に基づき説明（資料2）

以上 平成22年度 第1回豊田市スポーツ振興審議会終了